

多久聖廟は、学業成就などを願う参拝客が全国各地から訪れ、一年の幸せを願う初詣のスポットとしても人気です。学業成就に魅力があるのは、論語で

市民から寄せられたアイデアに 幾重もの手作業が加わった巨大絵馬

学んでいる成果を形にし、未来永劫に残るものづくりの絆を残したいと地域活動に賛同し、孔子様や多久聖廟に関わるものづくりができて幸せを感じます。私たちの分身である絵馬を末永く使っていただき、多久の新たな文化として根付くことを期待します。

製作者を代表し、「贈呈のことば」を伝える訓練生 ▶



2010、この新しい年に広くみなさんにお目見えとなる巨大絵馬と紙芝居舞台が木工技術を学ぶ訓練生によって作られました。これらは、多久市を想う人々の心が幾重にも重なり、地域に貢献するものづくりとして、製作となったのでした。その心やものづくりは、まさに『温故知新』。古き時代を大切にしながら新しい時代のものづくりであり、育む心のつながりです。

新年を迎え、様々な人との関わりによって、価値が高まり、多くの人の心をつなぐものとなるでしょう。

訓練生が工夫や技を發揮し、

みなさん、親しんで!! 地域に貢献

※心を込めた巨大絵馬と紙芝居舞台を贈る※



製作したインテリア工芸科訓練生のみなさんと
感謝状を贈った依頼者の代表ら（佐賀県立産業技術学院で）

多久町にある佐賀県立産業技術学院インテリア工芸科の26人が手掛けた『多久聖廟巨大絵馬』3体と『多久物語紙芝居舞台』2セットが完成し、多久市観光協会と多久市中央公民館に12月1日、贈呈されました。絵馬は、高さ1.3m、幅1.8mの大きさと、色のりがよく耐久力のある木素材を使って製作。学業成就など願い事を入れる投函口が備わり、表面のメッセージボードが差し替えできるなど利

便性にもこだわり、訓練生の工夫や技が生かされています。紙芝居舞台は、A2版に適した大きさと、木の素材がなめらかで使いやすい仕上がり。転倒防止や持ち運びにも便利に工夫され、デザインや色が、紙芝居の絵や演出をいっそう引き立たせます。学院では、8科、153人がものづくりを中心に訓練を行い、インテリア工芸科ではものづくりによる地域貢献活動を行って3年目。2班に分かれ、約1か月をかけて製作した訓練生は贈呈式で、木工実技訓練の成果を發揮できた思いやこの2つに込める願いなどを伝え、初めて地元多久市に貢献できたこと、ものづくりの心を育めたことに喜び、多くの人に親しまれることを願っていました。

携帯電話やコンピューターが不可欠なライフスタイルですが、仕事をする上で人との対話が大切だと実習を通じて再認識しました。表情と共にじかに人が人に伝える機会が大切であることに気づき、この地域活動に賛同。この紙芝居舞台の計り知れない可能性を感じ、多久の心が末永く語り継がれることを祈ります。

製作者を代表し、「贈呈のことば」を伝える訓練生 ▶



ボランティアガイドの活動から誕生。 懐かしくて新しい紙芝居

平成20年10月、多久市の観光名所である多久聖廟や西溪公園を案内する「孔子の里観光ボランティアガイド」の活動が始まりました。たくさんの観光客に多